

第14回 京都市稻荷山トンネル安全対策委員会

議事次第

〔令和4年3月22日(火)～
書面開催〕

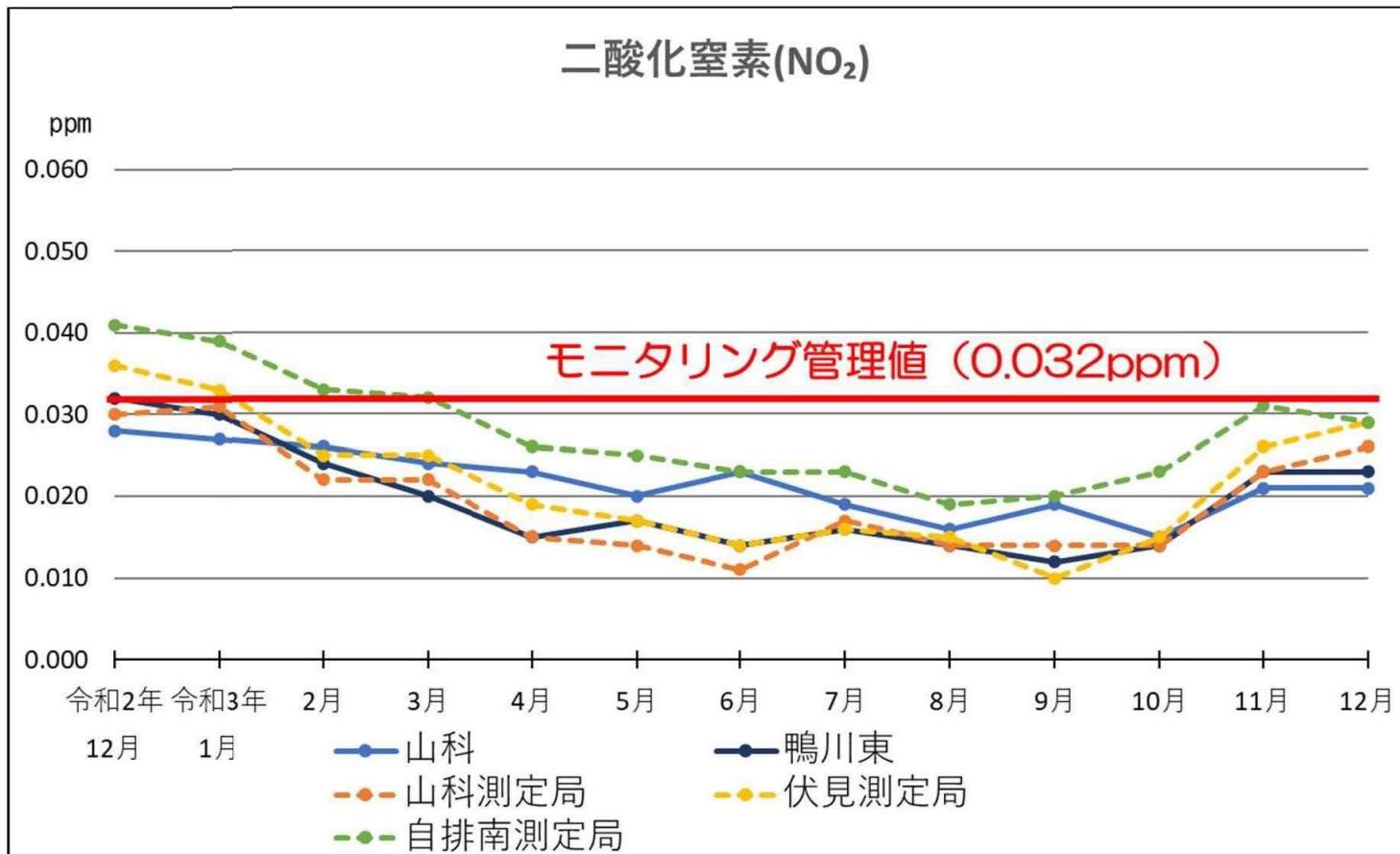
【議題1】 モニタリング調査結果に基づく換気設備（排風機）の停止について

【議題2】 京都市稻荷山トンネル安全対策委員会の休止について

資料1

モニタリング調査結果

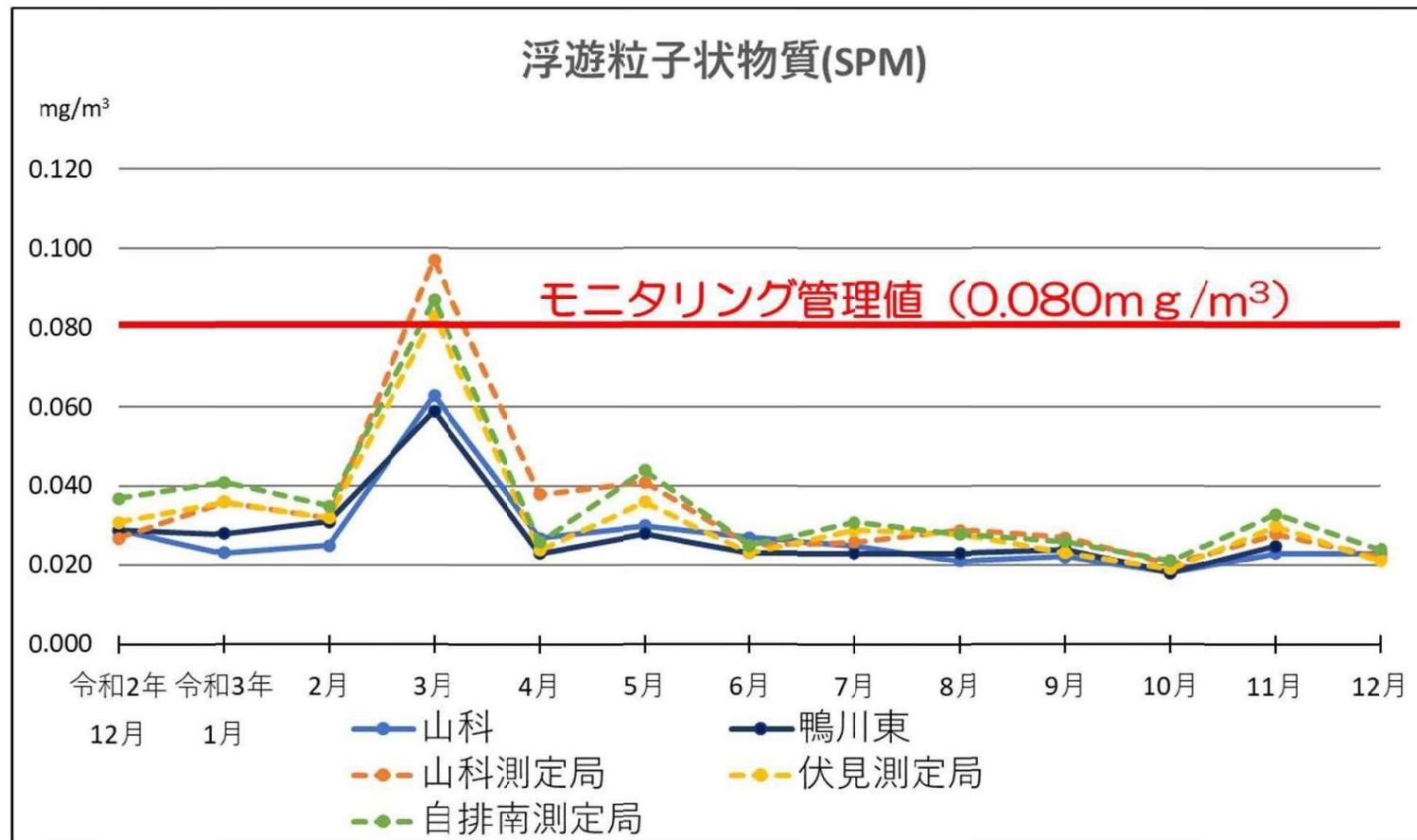
モニタリング期間中における 日平均値の月別最大値(NO_2)



※

- モニタリング管理値を2日連続で超えた日はなかった。
- 冬季の値は、大気が安定状態で空気が対流しないことにより、数値が高くなる傾向にある。

モニタリング期間中における 日平均値の月別最大値(SPM)



※

- 令和3年3月は、全国的な黄砂の飛来により高い値となっている。
- 令和3年12月の鴨川東は、計測器故障のため、欠測

モニタリング期間における環境基準値(NO_2)

二酸化窒素 (NO_2)

	年平均値 (ppm)	日平均値の 年間98%値 (ppm)	環境基準等達成状況			備考
			環境基準	京都市環境保全基準		
				当分の間		
① 鴨川東	0.011	0.026	○	○	×	京都市
② 山科	0.011	0.025	○	○	×	京都市

環境基準：日平均値の年間98%値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下

京都市環境保全基準：日平均値の年間98%値が0.02ppm以下

京都市環境保全基準（当分の間）：日平均値の年間98%値0.04ppm以下

- ※
- ・モニタリング期間中は、環境基準値(0.04ppm)の80%を管理値(0.032ppm)として設定した。
 - ・京都市環境保全基準は×となっているが、京都市のほとんどの地域で達成されておらず、今後、段階的な達成に向けて施策を進めていくための基準

モニタリング期間における環境基準値(SPM)

浮遊粒子状物質 (SPM)

	年平均値	日平均値の年間2%除外値	日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日が2日以上連續したとの有無	1時間値が0.20mg/m ³ を超えた時間 (時間)	環境基準等達成状況		備考
	(mg/m ³)	(mg/m ³)			長期的評価	短期的評価	
① 鴨川東	0.013	0.028	無	0	○	○	京都市
② 山科	0.013	0.026	無	0	○	○	京都市

(環境基準及び京都市環境保全基準)

長期的評価：日平均値の年間2%除外値が0.10mg/m³以下。ただし、年間2%除外値の内で環境基準を超える日が2日以上連續した場合は、非達成と評価する。

短期的評価：1時間値が0.20mg/m³以下

※ モニタリング期間中は、環境基準値(0.10mg/m³)の80%を管理値(0.080mg/m³)として設定した。

モニタリング調査結果に対する 東野委員長・上田副委員長からのコメント

稻荷山トンネル無料化後の通行車両台数増加による大気汚染物質 (NO_2 , SPM) 濃度（長期評価）の上昇は認められず、濃度は減少傾向にある。

また、1年間にわたる排風機停止による大気質への影響調査の結果、停止期間中の大気汚染物質濃度は管理値以下であり、稼働及び停止を含めた全期間中の濃度は周辺の一般監視局濃度と同様な変動傾向を示し、問題は発生していない。

稻荷山トンネル供用開始以降、環境基準値を超えた事例は皆無であり、2050年カーボンニュートラル実現に向けた国内外の動向から、今後開発・販売される自動車の脱炭素化の流れは、同時に自動車排ガスのさらなるクリーン化も期待される。

以上の観点から、排風機停止による稻荷山トンネルからの自動車排ガスによる周辺大気質への影響が今後増大する可能性は極めて低いと考えられる。

資料2

京都市稻荷山トンネル安全対策委員会の
休止について

京都市稻荷山トンネル安全対策委員会の目的

京都市稻荷山トンネル安全対策委員会の運営に関する要綱 抜粋
(検証内容)

第3条 委員会における検証内容は次のとおりとする。

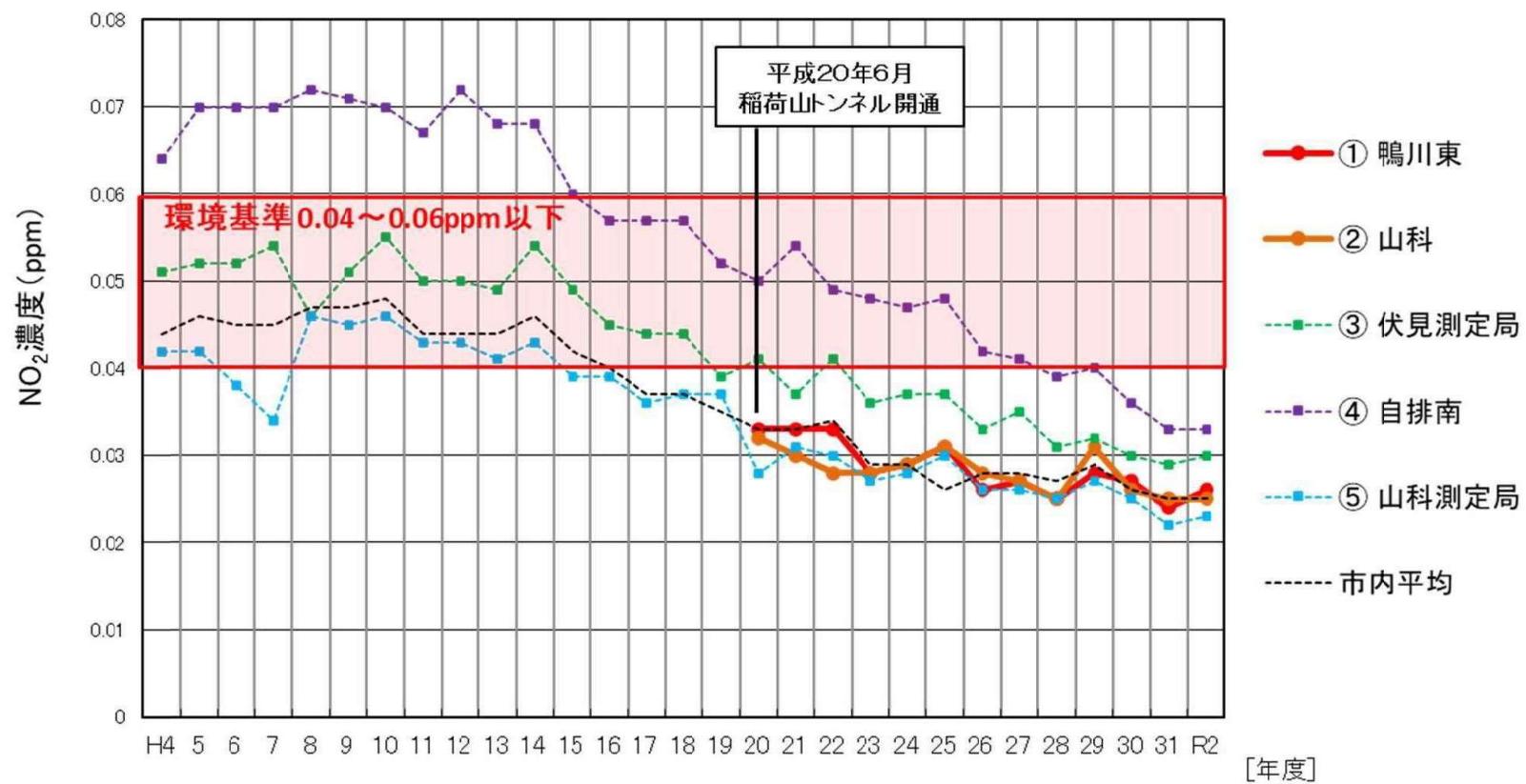
京都市稻荷山トンネル（以下「トンネル」という。）における別表の環境測定結果や、国の定める環境基準を上回る等予測し得なかった環境の変化が見られる場合に必要に応じて行う詳細な調査等の結果について、科学的な知見をもとに、トンネルの設置が周辺の環境に与える影響の程度を検証し、また、トンネルの設置に起因して国の定める環境基準を超過した場合には、具体的な環境保全対策を検討するものとする。

（委員会での検討事項）

- ・稻荷山トンネルが周辺の環境（大気質等、騒音・振動）に与える影響の検証
- ・環境基準値を超えた場合の環境保全対策の検討

二酸化窒素(NO_2)測定結果の推移

日平均値の年間98%値の年度別推移

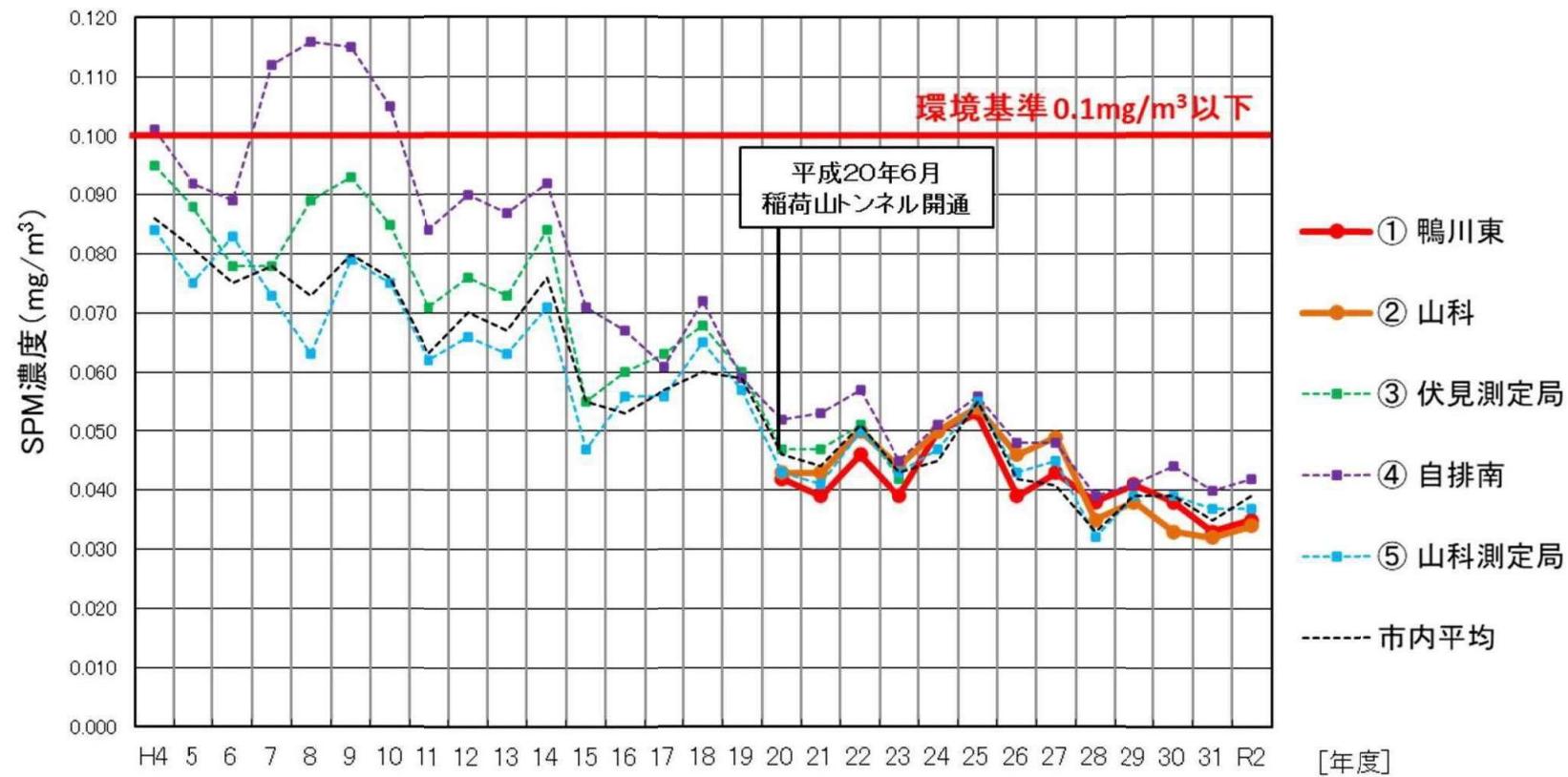


※

- ・数値は、トンネル開通時から、年々減少傾向にある。
- ・稲荷山トンネルの観測局（鴨川東、山科）の数値は、市内平均値とほぼ同じような動きをしており、トンネルの影響ではなく、その他全体の大気質の影響を受けている。

浮遊粒子状物質(SPM)測定結果の推移

日平均値の年間2%除外値の年度別推移



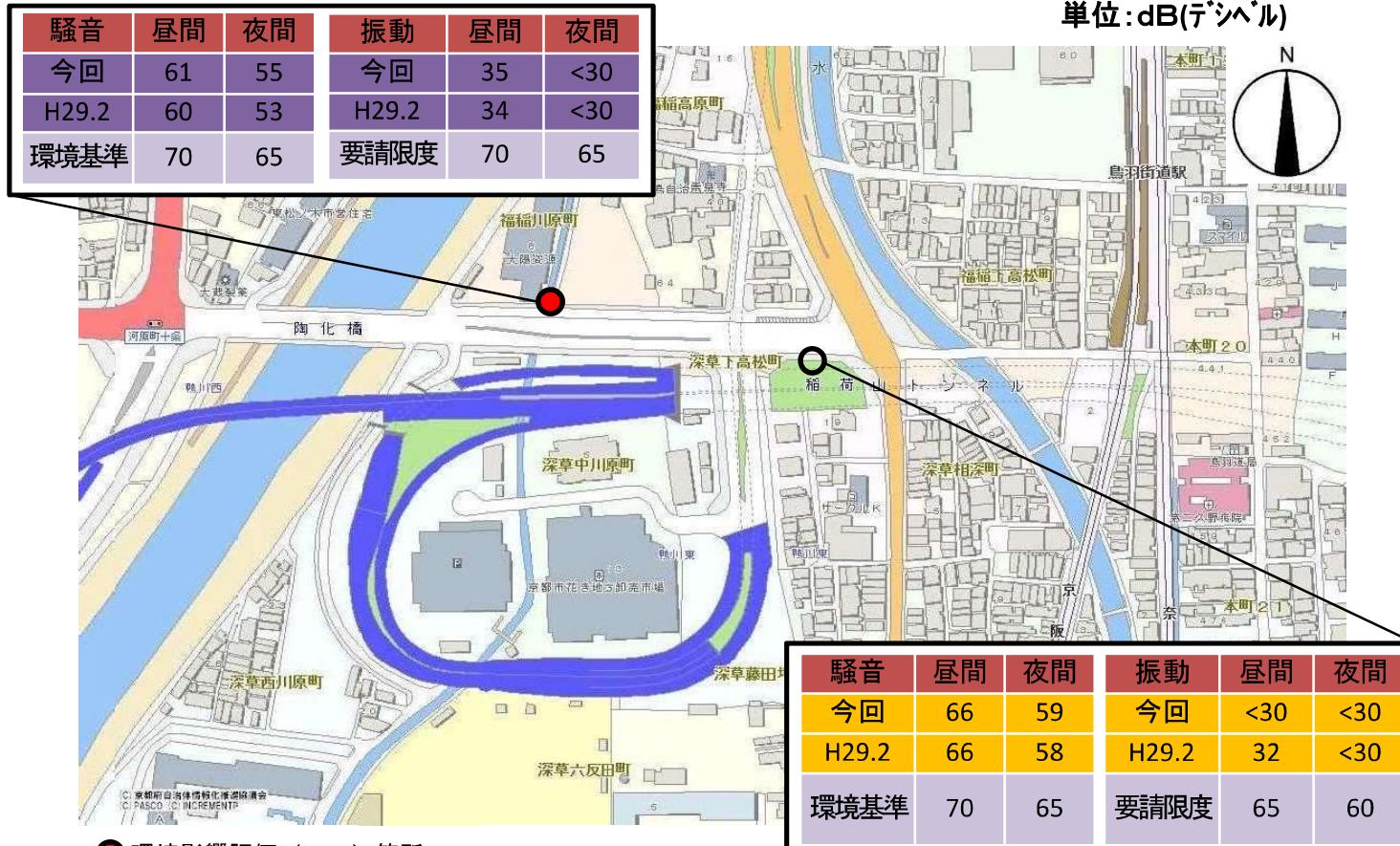
- ・年度によって数値は、上下しているが、トンネル開通時から比べると数値は減少している。
- ・稲荷山トンネルの観測局（鴨川東、山科）の数値は、他の観測局の数値とほぼ同じような動きをしており、トンネルの影響ではなく、その他全体の大気質の影響を受けている。

(令和元年12月23日開催) 第12回委員会資料抜粋

鴨川東IC周辺部における騒音・振動の調査

日時：令和元年10月29日（火）～30日（水）

結果：すべての箇所で基準を満足



(令和元年12月23日開催) 第12回委員会資料抜粋

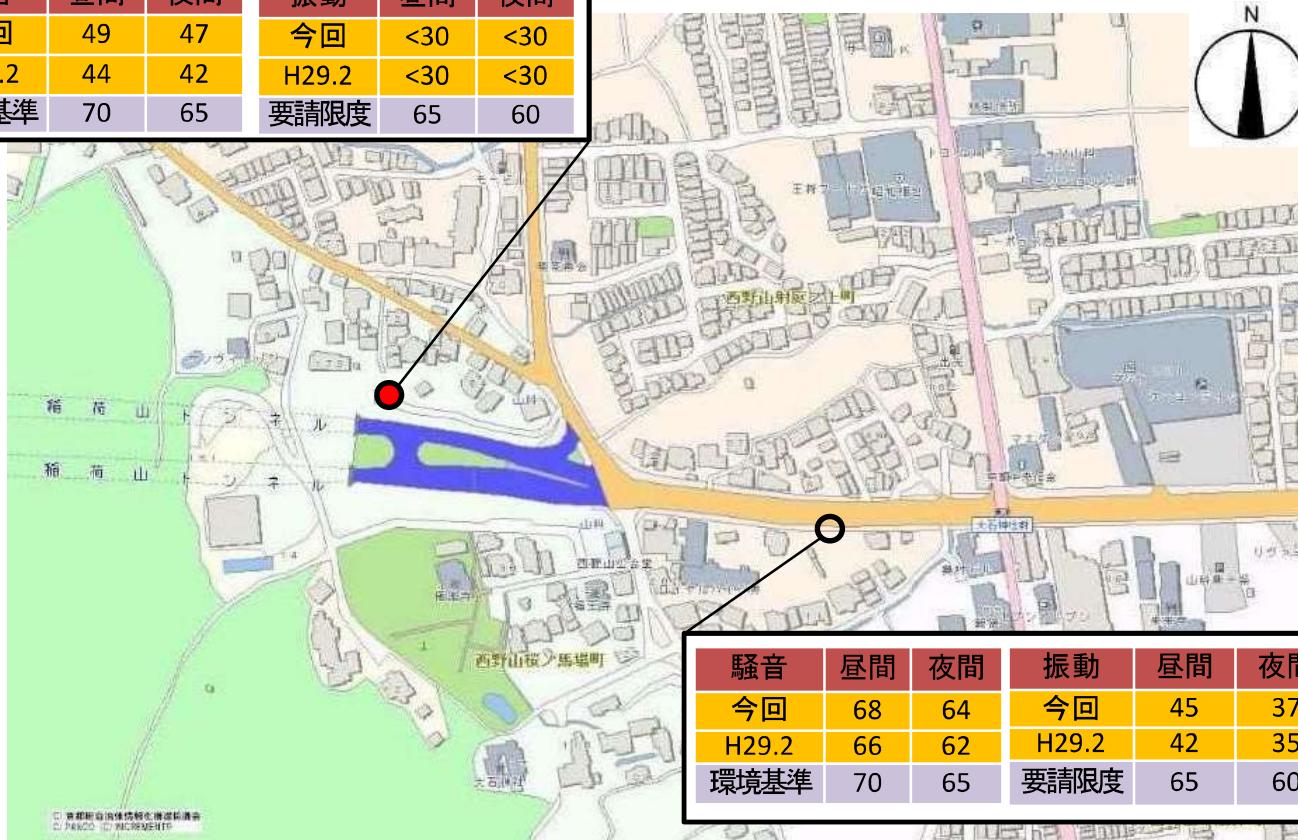
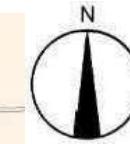
山科IC周辺部における騒音・振動の調査

日時：令和元年10月29日（火）～30日（水）

結果：すべての箇所で基準を満足

騒音	昼間	夜間	振動	昼間	夜間
今回	49	47	今回	<30	<30
H29.2	44	42	H29.2	<30	<30
環境基準	70	65	要請限度	65	60

単位：dB(デシベル)



騒音	昼間	夜間	振動	昼間	夜間
今回	68	64	今回	45	37
H29.2	66	62	H29.2	42	35
環境基準	70	65	要請限度	65	60

●環境影響評価（H 6）の実施箇所

※表中 H29.2は、過年度に計測した数値